

グローバルガバナンスと国連の将来

横田 洋三・宮野 洋一 編著

2008年8月10日発行

中央大学出版部 発行

本体価格 4,000円(税別)

はしがき		
第1部 国連・安全保障・日本		
第1章	国連の60年:国際法学者の視点から -国連憲章第7章の60年を題材に-	J. -F. マルキ (久保田有香 訳)
第2章	国連憲章の原初案	武山 眞行
第3章	日本と国連-人間の安全保障を真剣に考える-	イアン・ニアリー (横田直文 訳)
第4章	国連平和維持活動への日本の貢献と課題	柳井 俊二
第5章	国連安保理改革と日本 -日本の安保理常任理事国入り問題-	折田 正樹
第2部 国連の課題:事例研究		
第6章	カンボジアの事例研究 -UNTACの政治的分析-	明石 康 (久保田有香 訳)
第7章	アフガニスタンにおけるISAF -「人道的」な外科手術後の「看護」に関する研究-	V. S. マニ (竹内雅俊 訳)
第8章	アフガニスタンの転換 -ISAFの役割について-	アミン・サイカル (竹内雅俊 訳)
第9章	東ティモール紛争後の政治的基礎の確立における 国連平和維持活動の役割-批判的分析-	長谷川 祐弘 (横田直文 訳)
第3部 国連改革の行方:ガバナンスと国連		
第10章	人権理事会の創設と今後の課題	横田 洋三
第11章	平和構築プロセスにおける混合刑事裁判所の役割 -法の支配の実現に向けて-	北村 泰三
第12章	地球環境ガバナンスとUNEPの将来-UNEPからWEOへ-	星野 智
第13章	UNESCO文化多様性条約の意義 -Hélène RUIZ-FABRI論文に即して-	西海 真樹
第14章	国連と市民社会-事務総長の役割を中心に-	内田 孟男
第15章	「グローバル行政法」論の登場-その背景と意義-	宮野 洋一